

2024年度 総括案

代表 沼田 栗実

2024年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の流行前の状況に少しずつ戻っていることを感じながら、活動してきました。定例の活動だけではなく新しい取り組みもしながら、出来ることを考え、実行してきたと思います。事業ごとに振り返り、総括していきたいと思います。

2024年度は、以下の3つの短期目標を掲げ事業を行ってきました。

- ① HIV/ エイズを取り巻くさまざまな環境や時代を鑑み、活動の内容を精査していく。
- ② スタッフが参加しやすい勉強会を実施し、「HIV/エイズに関する知識」だけではなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。
- ③ 活動の輪を広げるための会員数の拡大に向けて、アクセスしやすい環境を整備する。

電話相談事業は、毎週火曜日の19時～22時までに行っている当会でも長い歴史のある事業です。

2024年度は、公益財団法人エイズ予防財団の助成を受け、運営することができました。

電話相談の件数だけを見ると354件とコロナ禍以前に戻ったように感じますが、この件数の中には何度もお電話をくださる方も含まれます。何度も何度も電話相談を利用している相談者への対応は、モチベーションの維持が難しくなる時がある中で、諦めることなく対応してくれています。

電話相談の評価は、一概に件数だけを見ることはできませんが、何度も電話相談を利用される方の中には「レッドリボンさっぽろの相談がいい」「ここに電話して、救われている」という声もあります。また電話相談利用者からお礼のメールをいただいたこともあり、相談者の不安解消につながっていると評価しています。心が折れることなく、いつも丁寧に相談対応をしてくれている相談員に感謝しています。

時間がない中で、最新情報や性感染症の情報を含め必要な外部研修に積極的に参加し、相談員それぞれが研鑽を積むことができました。研修で得た情報を生かしながら、これからも言葉選びを慎重に、相談者に寄り添えるようにしていきましょう。

また、札幌市主催の「LGBTのためのエイズ検査会」での当日の相談員派遣を引き続き行っています。札幌市の直営検査では唯一相談員の配置をしている検査事業です。どのような検査でも相談員の役割は重要なものですが、特に即日検査の特性から、判定保留の結果説明時（陰性とも陽性とも確定できない状況）の相談対応は「とても重要なこと」と考えています。そのような場に当会の相談員が協力でき、他団体からも評価いただいていることを嬉しく思います。

そして、前年度に引き続き、札幌市の「LGBTに関する電話相談」の相談員として関わ

っているスタッフがいます。当会のエイズ電話相談とは異なる難しさがありますが、変わらず信頼される対応をしてくれている相談員に感謝いたします。

2024 年度も相談員 2 名体制で運営してきました。相談員が仕事により、シフトに入れない場合もありましたが、以前相談員をしていたスタッフの協力も得ながら、2 名体制を維持しながら運営することができましたが、相談員の増員も課題です。相談員の増員を考えると育成研修などの労力もかかりますが、できる範囲で相談員増員についても考えていきましょう。

講演事業は、当会への講演依頼はなく充電期間な一年となりましたが世界エイズデー札幌実行委員会の一員として、札幌市の「学生向けエイズ・性感染症出張講座」に対応でき、講演の機会を持つことができました。講演先が医療系大学生ということ考虑し、針刺し事故感染リスクの話盛り込むなど、対象の学生層に合わせた内容に少しずつ調整し実施できたと思います。これは短期目標①の達成につながっていますね。世界エイズデー札幌実行委員会と調整し、講演先の調整もお疲れ様でした。

講演は、平日の日中の依頼がほとんどです。平日に動ける講演スタッフの確保が継続的な課題ではありますが、講演依頼が来たら対応できるよう、講演内容のアップデートも含め準備していきましょう。

2024 年度も医療福祉サービス事業者からの“HIV 陽性者のリアルを伝える”の講演依頼はありませんでしたが、担当スタッフのつながりから道外のコミュニティセンターにおいて、引き続き陽性者の生の声を伝えています。直接的な講演依頼ではありませんが、当会のスタッフ宛に札幌市の LGBT フレンドリー指標制度登録企業への講演依頼があり、札幌市内の調理師専門学校の教職員を対象に、LGBT について理解を深める勉強会を実施しました。HIV 陽性者の視点を踏まえた内容も盛り込み、広い視点での勉強会になったと思います。身近なところから伝えていくことが、当会が目指す「HIV 陽性者・AIDS 患者との共生を目指し、差別・偏見のない社会を実現」の第一歩と考えます。これからも大切に活動していきましょう。

2025 年度は、世界エイズデー札幌実行委員会とも協力しながら運営していけるようスタッフで調整しています。今後の講演活動に期待しています。

アウトリーチ事業は、当会の事業の中で、一番多くのスタッフが関われる事業です。2024 年度も北海道医療大学大学祭「九十九祭」と「さっぽろレインボープライド」でブース出展することができました。

今回のブースでは「HIV 検査に関する参加型アンケートの実施」という新しい取り組みもできました。参加者とスタッフがコミュニケーションを取りながら、HIV 検査について考えるきっかけづくりになったと思います。また、HIV 検査について行政や関係機関に提言していくためにも必要な結果となったと思います。これからも新しい取り組みをメンバーみんなで考えて、実施できるといいですね。

また、イベントにブース出展参加するだけでなく、2024 年度も引き続き、一般社団法人にしじろほっかいどう（以下、にしじろほっかいどう）と共催で「みんなで考えよう LGBT の老後」講演会と「ともだち作り×HIV 学習会『UPDATE!!』」（以下、「UPDATE!!」）の勉強会イベントを開催することができましたね。「UPDATE!!」で

は、さっぽろレインボープライドに合わせ札幌市内での「よりみち UPDATE!!」の他、苫小牧市、函館市と札幌市以外でも開催できました。「U=U」や「PrEP」についても触れ、参加者から「知識が10年前で止まっていた」「最近 PrEP という言葉をよく目にするけど、簡単に薬を飲むだけじゃないんだ」などの声も聴け、参加者への正しい知識の普及・知識のアップデートにつながった会になったと思います。これらは、にじいろほっかいどうと企画・調整し、当日運営・協力してくれたスタッフがいなければできなかったことです。メンバーとにじいろほっかいどうの皆さまに感謝し、これからも協力して北海道内で啓発活動を行っていきましょう。

これら以外にも、全国の LGBT パレード等で当会紹介リーフレット等の配布を行うことができたほか、ラジオでの情報発信など様々なツールを利用しながら、HIV/エイズについての情報を発信できたと思います。

短期目標②の「勉強会の実施」はできませんでしたが、アウトリーチ活動の中で、参加者とのコミュニケーションを取ることが『感じる力』『考える力』『伝える力』などのスキルアップにつながっていますね。

アウトリーチ事業は、スタッフの「やりたい!」「発信したい!」を実現できる事業です。これからもより多くのスタッフのモチベーションをくみ取り、会のみんで情報発信していきましょう。

ななかまどPJは、北海道に暮らす HIV 陽性者が「今よりもっと元気になるために必要としていること」を共に考え、形にしていくことを目的に、面談ルーム「くれば一緒に」と陽性者交流会を実施しています。くれば一緒にの問い合わせ・利用はありませんでしたが、陽性者交流会は、引き続き運営することができましたね。

2024 年度は、陽性者交流会がスタートしてから 10 周年の年でした。交流会当日に携わるスタッフが 1 名体制になりましたが、広報フライヤーの制作もでき、拠点病院や保健所への情報提供ができましたね。また、全国の陽性者交流会を行っている団体や担当者とも意見交換を積極的に行い、他団体とも協力し、今後の活動の在り方についても考えながら、運営してくれています。

そんな中でも、参加申込の定員割れなどで中止せざるを得ないこともありましたが、スタッフが適宜、開催と中止の判断を検討し適切に動いてくれたことに感謝いたします。

陽性者交流会は、自分が HIV 陽性者であることを気にせず話せる場であり、ニーズのある事業です。道内の陽性者の手に届く事業を今後もしていきましょう。

交流会スタッフも増員が課題です。陽性者スタッフの募集・育成もできるところから検討していきましょう。スタッフ 1 名の運営で内輪の会にならないよう、陽性者スタッフだけが負担にならないよう、ななかまどPJメンバー全員で、安定した交流会が実施できるよう意識しながら、これからも運営していきましょう。

キルト部門は、毎週火曜日に定例で活動してくださっています。2024 年度も、毎年行っている特定非営利活動法人 エイズ孤児支援 NGO・PLAS 様へのキルト部門からの寄附もできましたね。そして、当会のキルトを手にした方から、好評で再度制作の依頼もあり、丁寧に活動をしてくださっているのも感じています。

キルト部門も、会員が少しずつ減ってきています。担当者の負担や、今後の不安の声

も、事務局スタッフが聴いています。事務局もキルト会員の皆さんが、これからも楽しく安心して活動できるようサポートしていきましょう。

キルト制作は、誰でも簡単にできる活動ではありません。一針一針丁寧に、愛情をこめて、定期的にキルト制作してくださっているキルト会員の皆さまに大変感謝しています。

全体を通して、2024年度もたくさんの活動してきました。前述した事業の他にも、台湾レッドリボン基金会スタッフが来訪し情報交換や交流もできましたし、Futures Japanの調査カンファレンス会議や企業からのHIV陽性当事者インタビューなどにも参加しています。変わらない主要スタッフ不足により、会員・ヘルプスタッフの皆さんに対して会の中での勉強会の実施はできませんでしたが、スタッフそれぞれが各学会や勉強会に参加でき自己研鑽に努めています。例年より活発な活動になっており、様々な団体とのつながりが、スタッフの経験になり、当会の活動の幅を広げています。これからも、このつながりを大切に、活動していきましょう。

札幌市主催のLGBTのためのエイズ検査の広報や当日の相談員派遣、厚生労働省の研究班の事業への協力など、継続できている事業もあります。ここには記載できなかった事業もたくさんあります。新しくヘルプスタッフ登録してくださった方の活躍もありました。これまでの活動をつないでくださってきたメンバーが集まる機会もあり、たくさんの人に支えられて活動できた（活動してきた）ことを実感する一年でした。当会の活動を支えてくださっているすべての人たちに大変感謝いたします。

また、2024年度も助成金だけではなく、資金面で継続的に応援して下さる賛助会員の皆様、たくさんの寄附をいただいた個人の皆様、啓発資材のサンプルを提供いただいた企業様等、たくさんの方々を支えられ、事業を全うすることができました。本当にありがとうございました。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。

2025年度も、アウトリーチ事業は「九十九祭」と「さっぽろレインボープライド」でのブース出展を予定しています。講演事業も世界エイズデー札幌実行委員会と協力していきながら活動できるようスタッフが調整しています。ななかまどプロジェクトは、陽性者交流会も開催要件を少し見直しながら事業をスタートさせています。研究班の取り組みでも、にじいろほっかいどうと協力し、「UPDATE!!」の他、研修会・講演会の企画も動いています。短期目標と中期目標の達成も意識しながら、2025年度もメンバー一同、同じ方向を向いて活動していきましょう。

定例ではございますが、2025年度も事務局メンバーだけでは、会の活動はできません。会のみんなで事業を進めていきたいと思っています。すでに進めているものもありますが、スタッフの「やりたい！」も拾い上げながら、2025年度も活動していきたいと思っています。自分の得意分野ややりたいことを、ぜひ事務局に教えてください。各々が「ワクワクすること」「心が動くこと」を考えながら、自分が出来ることから始め、みんなで活動の輪を少しずつ広げて行きましょう。